

発 言 通 告 書

発言者氏名	二見英一
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 地域における登下校時の見守り活動について

- (1) 本市の小学校区における見守りの現状と課題に対する市長及び教育長の認識について
- (2) ICタグやGPS端末等を導入すべきということに対する市長及び教育長の所見について
- (3) 地域における見守り隊に対する地域防犯関係物品支給等事業と交通安全関係物品支給等事業を統合し、広く周知を行う必要性について
- (4) 見守り隊が熱中症にも対応した保険制度に加入できるような仕組みづくりの必要性について

2 幼児教育の段階的無償化と教育保育現場の人材確保策について

- (1) 来年度の本市における幼児教育・保育の段階的無償化への取り組みに係る拡充策について
- (2) 保育士、幼稚園教諭に対し、国の補助制度を活用しながら本市独自の人材確保策や処遇改善を行う必要性について

- (3) 私立幼稚園等教材等購入費補助事業の対象品目を見直す必要性について

3 猿島と第二海堡のさらなる利活用について

- (1) 猿島トロピカルディスコの継続開催に係る本市の意向及びイベントに参加した市長の所見について
- (2) 猿島においてキャンプやホテルシップ等の宿泊利用が可能となるよう取り組む必要性について
- (3) 第二海堡上陸ツアーと既存のルートミュージアムとの関連性について
- (4) 第二海堡上陸ツアーと猿島を結びつけることによるプレミアムイベント及び新たな海上観光ルート創設の必要性について

発 言 通 告 書

発言者氏名	長谷川昇
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 教職員の多忙化に関する教育委員会の対応について

- (1) 教職員の多忙化の本当の要因に関する教育長の把握の有無について
- (2) 多忙化の解決に向けて取り組んでいる内容について
- (3) 勤務時間を意識した働き方を進めることについて
 - ア 校長及び服務監督権者である教育委員会による勤務時間の管理に対する教育長の認識について
 - イ 近隣市におけるICTを使用した勤務時間の管理に対する教育長の認識について
 - ウ 勤務時間外の保護者等からの問い合わせに対応するためのコールセンター等連絡体制の整備検討の必要性について
- (4) 業務改善の取り組みを強く推進することについて
 - ア 時間外勤務の削減に向けた業務改善方針・計画の策定に係る早急な対応について
- (5) 持続可能な勤務環境の整備について

- ア 本市の教職員の働き方改革に係る検討会議による専門スタッフの配置等に関する施策の答申の有無及び業務改善方針・計画の策定について
 - イ 夏季休業中における学校の閉庁日設定を全校で実施しなかったことについて
 - ウ スクールロイヤーに関する施策の必要性について
- (6) 教職員の多忙化対策における市長のリーダーシップに対する市長の認識について

2 災害時における防災体制の整備について

- (1) 震度6を超える地震が発生した場合に想定される本市の被害内容及び避難所等に避難する市民等の人数について
- (2) LPガス災害バルクシステムの整備の必要性について
- (3) 地域防災組織の現状の課題に対する対応策について
- (4) 小中学校トイレの洋式化改修の推進について
- (5) 大規模災害時無料提供無線LAN「00000JAPAN」の普及啓発及びWi-Fiスポットの設置場所周知の必要性について
- (6) 防災体制の指示系統を明確にするために実施した組織改編に対する市長の実感について

3 米海軍横須賀基地での避難訓練について

- (1) 米海軍基地内での実効性のある原子力災害時避難訓練と通常の避難訓練の実施並びに米海軍及び南関東防衛局に対する同訓練の実施に係る要請の必要性について

発 言 通 告 書

発言者氏名	小幡沙央里
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

1 社会的養護推進計画について

- (1) 本市における社会的養護のあり方について
- (2) 里親委託について
 - ア 当事者の意見等を参考に施設養護と里親制度を現状分析し、今後の計画に生かす必要性について
 - イ 里親をふやす方策について
- (3) 「愛知方式」での特別養子縁組推進の必要性について

2 児童虐待の防止について

- (1) 横須賀にんしんSOSの充実について
 - ア 妊娠の可能性のある段階から相談できる体制の周知について
 - イ 相談のためのSNSや無料通話アプリ導入の検討について

- (2) 産後ケアの充実について
 - ア 産後ケア事業の積極的な周知について
 - イ 産後ケア業務委託料の見直しについて
 - ウ 訪問型産後ケアの導入について
- (3) 助産師の正規職員としての採用について
- (4) 子どもの居場所、遊び場を民間商業施設の一角へ整備する必要性について
- (5) 国からの補助金活用による、虐待をしてしまった、またはそのおそれの高い親への回復支援プログラムの導入について

3 総合相談窓口の設置について

- (1) 同窓口の設置時期目標を設定し、準備を進める必要性について
- (2) 社会福祉協議会との連携について
 - ア 社会福祉協議会の役割について
 - イ 社会福祉協議会とともに同窓口の設置準備を進めることについて

4 待機児童の解消について

- (1) 待機児童解消の達成見込み時期について
- (2) 「待機児童園」設置の検討について

発 言 通 告 書

発言者氏名	ねぎしかずこ
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

- 1 うわまち病院建替え方針を撤回し、出直す必要性について
 - (1) 方針を決定した翌日に、地元への説明もなく発表したことに
対する市長の見解について
 - (2) 都市計画法の改正により現在地で建てかえるには進入路の拡
幅が必要であることに気づいたときから方針を決定するまでの
間に地元への報告を一度も行わなかった理由について
 - (3) 同方針に係る説明もなく、結論を先に押しつけられた地元の
思いに対する市長の見解について
 - (4) 同方針を撤回し、地元の納得・合意を得ることから出直す必
要性について

- 2 改正健康増進法の成立を受け、受動喫煙防止の取り組みを強化す
る必要性について
 - (1) 同法が学校、病院、行政機関及び保育園において原則敷地内
禁煙としながらも、屋外に喫煙場所を設けることを可能とした
点について

- ア 学校における受動喫煙の実情と今後の取り組みに対する教育長の見解について
- イ 病院、行政機関及び保育園における受動喫煙の実情と今後の取り組みに対する市長の見解について
- (2) 資本金5,000万円以下、客席面積100平方メートル以下の既存飲食店については経過措置として喫煙を認めたことについて
 - ア 該当店舗の経営者に対し利用客の嫌煙志向など、近年の変化を伝える取り組みを実施する必要性について
- (3) 改正健康増進法の全面施行に向け、展開すべき具体的施策に対する市長及び教育長の見解について
- (4) 市内の不特定多数の市民が利用する駅周辺、公園、道路沿いに喫煙所のような状況になっている場所が存在していることに対する認識及び受動喫煙防止の観点から同場所に対する対策を実施する必要性について

発 言 通 告 書

発言者氏名	大村洋子
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

- 1 「音楽・スポーツ・エンターテイメント都市」「ワクワクする横須賀」を実現するために今回開催された「Pokémon GO Safari Zone in YOKOSUKA」を徹底的に真剣に総括することについて

「Pokémon GO Safari Zone in YOKOSUKA」が8月29日から9月2日の朝10時から夜8時までの計50時間、場所は三笠公園、ヴェルニー公園、くりはま花の国で行われた。位置情報ゲームとして実際の場所に多くの人々が集まる「Pokémon GO」は自治体の協力なくしては絶対に成立しないという性格もはらんでいるがゆえに、どの自治体も「Pokémon GO」の舞台になりたいのはやまやまだ。しかし、当然、受け入れる自治体にはさまざまなリスクが伴う。今回のイベント開催で本市はよい意味でも悪い意味でも多くの教訓を得た。これらの経験は「音楽・スポーツ・エンターテイメント都市」を標榜し推進する上で必ず役に立つものとの思いから市長に質問する。

- (1) 今回のイベントを振り返り市長の感想を伺う。
- (2) 今回の「Pokémon GO Safari Zone in YOKOSUKA」の舞台に本市が選ばれたのはどのような背景だったのか。実現した経緯を伺う。
- (3) 主催となり事前応募抽選制度をとり行ったのが「Pokémon GO」

の開発・運営を行っているナイアンティック・インクや株式会社ポケモンではなく、本市も入っている集客促進実行委員会だったのはなぜか。

- (4) ネットオークションサイトにおいて、なり済まし応募による当選アカウントが高額で不正転売されたことに対する市長の所見を伺う。
- (5) さらに不正転売を知った人物が「民間の営利目的じゃない、税金で物事している横須賀市が事前応募抽選で申込者が複数アカウントで重複応募出来ることが解っていながら、容認し採用したこと自体が問題だと思うよ。転売屋に肩を貸すことになっているものね。」とネット上で発言している。これらの発言や罵詈雑言なども含め、本市のイメージダウンをかなり助長するものとして広がっているが、市長のお考えを伺う。
- (6) 開催5日間の交通渋滞について市長の認識を伺う。
- (7) 移動基地局が出動していたが、通信障害の有無について市長の認識を伺う。
- (8) 「Pokémon GO Safari Zone in YOKOSUKA」を行うに当たり、本市の持ち出しの有無と金額、市長の所見を伺う。
- (9) 当選アカウントの数は1日2万人、5日間で合計10万人のところ、実際には5日間で6万5千アカウントの人々の参加しなかったようで、3万5千人は当選していながら、参加しなかったということになる。この点について市長の所見を伺う。
- (10) イベント期間中に参加した6万5千人で市内の宿泊施設がほぼ満室の状況とのことで、当選した10万人が参加していた場合には、多くの方々が宿泊できなかったといえる。宿泊施設が取れないから、参加できなかったと考えることもできるが、この点についての市長の認識を伺う。
- (11) 今回の「Pokémon GO Safari Zone in YOKOSUKA」を見る中で、私は「官」と「民」の役割、すみ分けの難しさをかいま見た気がしたが、市長の認識を伺う。また、この経験は今後の「ワクワクする横須賀」にどのように生きると市長はお考えか。

2 横須賀を本当の意味での「平和の発信基地」にすることについて

市長は横須賀を「ワクワクするまち」にしたいとおっしゃるが、私は横須賀を「平和の発信基地」にしたいと思う。ここでの基地とは、言わずもがな、軍隊の駐留場所ではなく、活動の拠点という意味を指す。

- (1) 私は1950年にスタートした旧軍港市転換法（以下、軍転法）の精神は基本計画に「可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合」とうたわせたと捉えている。軍転法と基本計画にうたわれた内容の関係性について、市長はどのように受けとめているか。
- (2) 軍転法から68年、本市は平和産業港湾都市として発展しているかと言えば、残念ながら決してそうとは言えない。昨今の基地関連施設の拡張を見るにつけ基本計画にうたわれている「可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合」は形骸化されていると思われるが、市長のお考えを伺う。
- (3) 「核兵器廃絶平和都市宣言」のオブジェである「平和のモニュメント」は高台にそびえ、雨の日も風の日も横須賀の町並みを俯瞰し、市民の安寧を見守り続けている。私たち横須賀市民はいま一度、核兵器廃絶の思いをしっかりと受け継ぎ、平和の決意を固めることが必要と思うが、市長のお考えを伺う。
- (4) 前定例議会で、被爆者の方々が市長にお会いしたいとおっしゃった場合、会っていただけますかとお尋ねしたところ、「ぜひ、会いしたい」と力強い答弁をいただき、実際にその機会を設けていただいた。面会された5名の被爆者の方々は喜んでいらっしまった。市長はどのような感想をお持ちになったのか。心模様を御披露願う。
- (5) 私は核兵器廃絶の問題は政治やイデオロギーではなく、どこまでも人道主義と平和的生存権に根差して、人間の根源的問題として捉えることが大切と受けとめている。市長のお考えを伺う。
- (6) 横須賀は軍事遺産、戦争遺跡が豊富にあることから平和教育のための生きた教材として市内外の人々へ大きな貢献ができる要素を持っている。今後ルートミュージアムを展開する上で、

平和教育の観点は必須のコンセプトだ。市長のお考えを伺う。
また、子どもたちへの平和教育という観点から教育長にも伺う。

3 2021 年稼働を目指す中学校完全給食をよりよいものにする ことについて

先般、中学校での給食実施率が上がると男子生徒の肥満が一定の割合で減少するという、大変興味深い報道があった。また、「朝御飯を食べていない」「お弁当の時間に教室から消える」「夏休みが終わると痩せている」「夕食も御飯にふりかけのみ」という子どもがいることが紹介されている論文なども目にする。

- (1) 完全給食と貧困、栄養、健康、さらに言えば医療費の削減、これらとの関連について市長、教育長の所見を伺う。
- (2) 過日行われた中学校完全給食推進連絡協議会では中学校給食が始まるに際し、食器についての議論となった。材質については小学校と同じポリエチレンナフタレート樹脂製とのことだが、このPEN食器の人体への影響、安全性は大丈夫か、教育長の所見を伺う。
- (3) 昨今、全世界的に脱プラスチックストローの流れが加速しているが、この際、PEN食器ではなく磁器製の食器という選択肢も一考すべきではないか。教育長の所見を伺う。
- (4) 全国の給食食器には絵柄つきのものがたくさんある。本市も文部科学大臣賞全国第1位を2年連続3回受賞している総合高校美術部の皆さんに中学校完全給食の食器に施すイラストやメッセージを考えていただくというのはどうか。横須賀で育ち行くことに一体感や喜びが持てる、そのようなすてきな食器になるとよいと思う。市長、教育長のお考えを伺う。

4 軽視は許されない米海軍基地内における大麻問題について

米海軍基地内で18歳の米国籍の大学生が男子高校生5人に大麻を譲り渡したとして大麻取締法違反で書類送検され、その後、家裁送致された。この18歳の大学生は「10人くらいの高校生に大麻を販売したことがある」「大麻は知人から購入した。自分が大麻を吸

っていることはみんなが知っている。」とも話していたという。繰り返される米軍人、軍属、家族も含めてのドラッグ問題。一体米海軍基地内はどうなっているのかと不信感が募るばかりだ。

- (1) 今回の大麻問題について市長の認識を伺う。
- (2) 書類送検が8月1日で、この一件がメディアに流れたのが8月8日。ささいなことでも本市に情報を寄せてくれるよき隣人は、果たして約束を履行していると言えるのか。書類送検後1週間も経てから、新聞報道でこの一件を知ったと聞いているが、市長はどのように受けとめ、認識されているのか。
- (3) 米海軍基地内のキニックハイスクールへ総合高校の生徒を今までどおり短期留学させることは賢明と言えるのか。私は少なくともこの短期交換留学を一時停止するべきと考える。教育長はいかがお考えか。あわせて市長にも所見を伺う。

発 言 通 告 書

発言者氏名	田中洋次郎
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

1 職員の確保及び採用について

- (1) 18歳人口の減少が見込まれ、将来的に横須賀市職員の人材確保が困難になるのではないかとと思われるが、市長の見解を伺う。
- (2) 多くの受験者に目を向けてもらえるよう、本市もさらに一層手を尽くすべきだと思うが、現状の対応で十分とお考えか、市長の所見を伺う。
- (3) 近隣自治体と採用試験日を合わせることで、採用辞退者防止の効果が果たして本当にあるか。また、採用試験の日程について、多くの都市の事例も調査したか。
- (4) 採用辞退者防止のため、最終合格者に対してどのような働きかけを行っているか。
- (5) 受験者数そのものをふやすために、どのような広報を行っているか。
- (6) 市長が説明会やホームページで熱く語りかけるといった取り組みも含めて、将来に向けて、本市が必要とする人材を持続的に確保できるよう、さまざまな見直しを進めていただきたいと思うが、市長の所見を伺う。

2 放課後こども教室について

- (1) 子どもの育ちにとって、地域の大人たちとのかかわりを持つこと、さらには、地域の皆で地域の子どもを育てるということがどのような影響を与えるか、市長の所見を伺う。
- (2) 放課後子ども教室に地域で活躍する文化芸術団体の人々に参加していただき、子どもたちが多種多様な体験をできる取り組みを展開することについて、市長の所見を伺う。
- (3) 放課後子ども教室を通じて、地域の大人が将来の担い手を育てていく取り組みの必要性について、市長の所見を伺う。

3 自立援助ホームでの憂慮すべき事案について

- (1) 公費を投入する施設に対しては、運営を細かく注視することが必要であると考えますが、市長の所見を伺う。
- (2) 入居者と事業者との関係のあり方について、市長の見解を伺う。
- (3) 社会福祉事業の事業者に求める姿勢とは何か、市長の所見を伺う。

発 言 通 告 書

発言者氏名	本石篤志
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

- 1 人生100年時代を展望した「シニア社会参加」のための全庁的な取り組みを目指した、「横須賀版シニア社会参加アクションプラン」の策定について
 - (1) 本市において10年以上にわたり実施してきた「認知症サポーター養成講座」の実活動者数の把握など事業効果の測定の有無と本年度より実施している「フレイルサポーター養成講座」の効果測定実施の予定について
 - (2) 厚生労働省の方針決定を受け、本市において、認知症の人と認知症サポーターの橋渡し役となるコーディネーターの活動費などの補助金を創設し、サポーターによる支援活動を強化することで、認知症の人が変わらず日常生活を送り、社会参加ができるようにする「(仮称) オレンジリンク事業」の取り組みに対する市長の所見について
 - (3) 福祉部と健康部で事業実施をしているフレイル予防対策の現体制を見直し、まずは福祉部高齢福祉課と健康部健康づくり課の定期的な包括的フレイル予防に関する連携を強めつつ、最終的には身体活動、社会参加フレイル予防及びオーラルフレイル予防を三位一体で実施する新体制を構築するべきとの考えに対する市長の所見について

- (4) 高齢者保健福祉計画、健康増進計画及び食育推進計画の終了年度を見据えて、人生 100 年時代を展望した「シニア社会参加」のための仕組みづくりを掲げた「横須賀版シニア社会参加アクションプラン」を策定し、調整担当を設け、全庁的な取り組みを推進するべきとの考えに対する市長の所見について

2 観光立市の促進に向けた環境づくりについて

- (1) 市内各商店街の組合などのニーズを踏まえ、本市において市内民間事業者を対象とした「公衆フリーWi-Fi整備費補助金」を創設し、Wi-Fi環境を整備することにより、訪日外国人インバウンドを集客し、「横須賀再興プラン」に掲げる観光客数を平成 33 年度までに 950 万人にする数値目標の達成を目指すべきとの考えに対する市長の所見について
- (2) 本市において既に独自に公衆フリーWi-Fiを整備している市内民間事業者や市の「公衆フリーWi-Fi整備費補助金」を活用した民間事業者と連携・協力し横須賀版公衆フリーWi-Fiを構築するなど、さらなる公衆フリーWi-Fi環境整備を図るべきとの考えに対する市長の所見について

3 「まるごとまちごとハザードマップ」のまちなか標示について

- (1) 西日本豪雨災害時において、自治体があらかじめ災害を想定し作成したハザードマップと災害の及んだ範囲がほぼ一致したが、ハザードマップの内容を住民が知らず、速やかな自主的避難につながらなかったという結果を受け、本市が行うべきハザードマップの周知の取り組みに対する市長の所見について
- (2) 国が進めている「まるごとまちごとハザードマップ」の標示を東電柱を活用した公共情報の表示で行うことに対する市長の所見について

発 言 通 告 書

発言者氏名	石山 満
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

1 災害備蓄品について

- (1) 液体ミルクに対する市長の認識について
- (2) 粉ミルクを補完する目的で液体ミルクの備蓄を検討する必要性について

2 観光地整備・美化事業について

- (1) 観光地整備・美化事業における美化清掃等の現状について
- (2) 馬堀海岸付近の遊歩道や消波ブロック、ベース前歩道橋のエレベーター、軍港クルーズ発着場における環境美化清掃の課題について
- (3) 観光立市推進基本計画に掲げる「受入環境」充実戦略としての観光地の環境美化事業に対する市長の所見について
- (4) 「観光立市推進条例」でうたわれる「おもてなしの心」を行政、事業者、関係団体、市民が共有する必要性について

3 妊娠・出産包括支援事業（横須賀版ネウボラ）について

- (1) 産後ケアの重要性について
- (2) 産後ケア事業の利用状況並びに検証状況について
- (3) 産後ケア事業における訪問型に対するニーズについて
- (4) 訪問型の産後ケアを検討する必要性について

4 子ども・子育て支援新制度における利用者支援事業について

- (1) 地域子育て支援拠点「愛らんど」の子育てアドバイザーを活用した利用者支援事業の基本型を実施することについて

5 「はぐくみかん」のサービスの見える化について

- (1) 利用者の方が安心して望まれる相談や手続を担当課において行えるようにするため、「はぐくみかん」1階の受付係をご案内のできる「子育てコンシェルジュ」として充実させていくことについて

発 言 通 告 書

発言者氏名	高橋英昭
発言の会議	平成30年 9月19日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 シェアリングエコノミーの活用について

- (1) シェアリングエコノミー事業者の活用を部局ごとの考えだけでとどめるのではなく、全庁的に研究・活用することを推進されてはいかがか。
- (2) 人と人とのつながりが希薄になってきていると言われる時代に、シェアリングエコノミーを介した新たなコミュニティづくり、共助の仕組みづくりをどのように考えるか伺う。
- (3) 万代会館のような地域資源を長く維持していくためにも、「シェアビレッジ」のような民間の取り組みを活用することを検討されてはいかがか。

2 学校での熱中症対策について

- (1) 今現在、市内公立学校に熱中症に関する対策指針のようなものはあるのか。また、その指針をもとにどのような指示をしているのか、教育長に伺う。
- (2) 本市も熱中症のリスクから児童・生徒を守るために、暑さ指数（WBGT）を基準としたガイドライン等の策定が必要と考

えるがいかがか。教育長に伺う。

- (3) 運動やスポーツの際の熱中症対策として、また、災害避難所での2次被害防止の観点からも、市内の体育館へのエアコン設置を検討されてはいかがか。市長、教育長に伺う。

3 市立2病院のあり方について

- (1) うわまち病院の建てかえ方針を見ると、地理的な理由で移転を判断したと見えるが、検討の中で地域医療構想を考える上での医療的メリット等は判断材料に全く入っていないのか伺う。
- (2) うわまち病院の移転先を検討する上で、市内北部の医療体制は横浜南共済病院などで充実している。東部は横須賀共済病院、西側には市民病院があるとなれば、移転先は市内南部に極力近い所がよいと思うが、いかがお考えか。
- (3) 市民病院は、答申の中にもあった、他の地域が30分圏内であるのに対し「脳卒中の患者搬送時間が西側で60分圏内となっている」という文面からも、まずは早急に脳神経外科の診療体制を整備する必要があると考えるが、いかがか。
- (4) 市立2病院体制を維持していくとなれば、市民病院も患者にも医師にも選ばれる病院である必要がある。そのためにはしっかりと投資していくことも必要だ。今後、市民病院も強化していかなければならないと考えるが、いかがか。